

生涯学習だより

生涯学習推進課 生涯学習係
☎(83)7021

文化財保護委員会の活動

文化財保護委員
会長 鈴木 一行さん

当委員会は昭和43(1968)年に制定された「松田町文化財保護条例」に基づいて設置されました。そして、その任務は「文化財の保存及び活用に関し教育委員会の諮問に答え又は意見を出すこと」及び「このため必要な調査研究を行う」ことにあるとされています。

委員会は年6回開催し、そこで5人の委員によって年間の活動計画などを話し合っています。

【主な活動内容】

- ・ 町指定文化財の現状把握
- ・ 文化財説明板の確認と設置
- ・ 「歴史講座」や「文化財ウォーク」の企画および講師
- ・ 県立公文書館職員による「古文書講座」への協力
- ・ 「広報まつだ」への執筆活動など

※今年度は「全国松田サミット」を担当した関係で文化財保護委員による歴史講座や文化財ウォークなどはお休みにさせていただきます



写真左から

柏木善治さん、中村正博さん
鈴木一行さん、草門隆さん
桐生海正さん

文化財とは「我が国の長い歴史の中で生まれ、はぐくまれ、今日まで守り伝えられてきた貴重な国民的財産」(「文化庁公式サイト」より)だと言われています。地域の文化財について学ぶことは、地域の歴史や先人の方々の思いを知ることに繋がります。

「私たちはどこから来て、どこへ行くか」として考えるのでしょうか?。そんなことを考えるヒントが文化財にはあると思います。一緒に文化財について学んでみませんか。

松田文化財探訪

My 二宮尊徳翁小伝 その10

文化財保護委員 草門 隆

「12の重要キーワード」総括

貴重な5カ月に渡る12のワード解説は「報徳思想・仕法」の肝であるため、恐縮ながら、翁を知っていただくために紙面を頂戴しました。

江戸後期600もの疲弊した村々の再建のための思想や手法を「興味をもっていただけるように」努めたものの非才故にその域には未達と推察しますが、標題の「My」に免じてご容赦願います。

この村々の再建は、村民達が厳しくとも日々実行・実践に繋がったからこそ成立したもので「村民達の力」でしょう。翁の指導ややり方が厳しさ一辺倒であったらどうだったでしょうか? 成立しないと思います。尊徳翁の考え方、やり方は昨今のSDGsの「持続(発展)可能な開発目標・実践」とも言えないでしょうか。

例えば、「相馬藩(福島県)仕法」において、米の収穫高

180年間を調べあげ、翁独特な手法(全集31巻P43)で適正年貢高を導き、藩主(相馬道胤)を納得させました。これは藩主が「分度」を認め、た証で村民たちは「藩主の仁政」を感じたことでしょう。

この賢人の藩主は後年、明治天皇に翁の伝記「報徳記」(富田高慶著)を誇らしく献上されたと言われています。

写真は、小田原藩主・大久保公の命により、両親死後、自力再生させた田畑・家の一切合切を売却し、70両を復興原資として、覚悟を決め桜町領(栃木県真岡市付近)に向かう金次郎(36歳)夫妻像。ミナカ(小田原)金次郎広場建立。ミナカ提供。

